

〈総合的な学習の時間 展開例 8〉

守ろう命、地震に自信（追究・実践型）〔40 時間〕

小学校 6 年生における実践例

防災教育で育てたい柱

〔学ぶ〕

〔考え・動く〕

〔実現・貢献〕

◆ 防災教育としてのねらい

地震についての基本的な事項を知り、自らの身を守るための判断力と行動力を身に付け、自分たちも地域の防災に協力しようという態度を育てる。

◆ 具体的な指導（単元構想図及び指導事例あり）

- 1 地震の怖さを知り、自分で命を守る意識をもたせる。〔3 時間＋（行事 3 時間）〕
 - （1）高台への避難訓練をする。
 - （2）東日本大震災や阪神大震災のビデオを見る。
- 2 学区の危険箇所を調べ、状況を把握させる。〔13 時間〕
 - （1）家の人と一緒に家の周りを調べる。
 - （2）学区の防災地図を作る。
 - （3）災害発生時のシミュレーションをする。
- 3 家の安全について調べ、現状を見直させる。〔14 時間〕
 - （1）愛知県や市町村等の事業を活用して、防災の専門家から話を聞く。
 - （2）防災センター等に見学に行く。
 - （3）家の中の安全について調べる。
 - （4）我が家の防災袋について考える。
- 4 地震について、もっと調べたいことを調べさせる。〔8 時間〕
 - （1）同じテーマをもった仲間とグループを作り、追究する。
- 5 学んだことを地域の人に発信させる。〔2 時間〕
 - （1）地域の人を招いて発表会をする。
 - （2）学区の人にも知らせるために、パンフレットを作り、配布する。

◆ 発展

- 市の防災担当部局職員、消防署員、防災士、気象予報士、防災に取り組んでいる NPO 法人、地域の自主防災会等を外部講師に招き、現実的・実地的な知識や技術を補足してもらおう。なお、外部講師を招く場合には、事前に、学習のねらいや学習内容及び依頼内容等について打ち合せておくことに留意する。
- 中学校や幼稚園及び保育園との連携も図れるとよい。幼稚園及び保育園へ出前授業を行う実践も考えられる。

◆ 関連する単元（参考例）

- 小 4 国語 みんなで新聞を作ろう〔東京書籍〕
- 小 5 国語 考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう〔光村図書〕
- 中 1 国語 話題や方向を捉えて話し合おう〔光村図書〕
- 中 2 国語 魅力的な提案をしよう〔光村図書〕
- 中 3 国語 話し合って提案をまとめよう〔光村図書〕
- 小 5 保健 安全マップをつくろう〔東京書籍〕
- 小 5 保健 自然災害に備えよう〔大日本図書〕
- 中 2 保健 自然災害による傷害の防止〔東京書籍〕〔大日本図書〕
- 中 2 保健 地域安全マップの作成〔東京書籍〕
- 中 2 保健 様々な自然災害の危険と安全な避難〔東京書籍〕

学習活動	教師の支援
<p style="text-align: center;">巨大地震がおきたらどうしよう。</p>	
<p style="text-align: center;">第1～3時 「見てみよう、巨大地震が残した跡」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高台への避難訓練について気付いたことを話し合う。 ・東日本、阪神大震災の様子を見た感想を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震に対する意識付けができるようにするため、避難訓練（学校行事）を終えてから、振り返りをさせておく。 ・地震による被害にはどのようなものがあるかを知るために、東日本大震災や阪神・淡路大震災の映像を見せて話し合わせる。
<p style="text-align: center;">津波だけじゃなくて火事や圧死も怖い。地震や津波が起こったら私たちの学区はどうなるのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を生かすために、どのような危険が考えられるかを話し合わせてから学区の危険場所を探すようにさせる。
<p style="text-align: center;">第4～16時「見つけよう、学区の危険な場所」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの家の周りの危険な場所を調べる。 ・調べた危険な場所を紹介し合うと同時に安全な場所についても考え、学区の防災ハザードマップを作成する。 ・通学途中に地震が発生したらどうすればよいのか、災害シミュレーションを通して話し合う。【参考指導案①】 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の中には災害の時に役に立つ場所があることに気付くことができるようにするため、避難所や防災倉庫、標高表示等を地図に記録させる。
<p style="text-align: center;">学区の危ない場所が分かったよ。地震が起きたらできるだけ安全な道を選んで通るぞ。次は自宅にいるときに地震が起きたらどうしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学区の安全について学習したことを生かすとともに、家の中の安全について意識が向けられるようにするため、様々な状況で地震にあった場合にどのような行動をとればよいか考えさせる場を設定する。
<p style="text-align: center;">第17～30時 「考えよう、我が家の地震対策」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用持ち出し袋（防災袋）の中身について考え、意見を交換する。【参考指導案②】 ・防災センターで地震体験をしたり地震が発生したときの家の様子を見学したりして、家庭で予想される危険について話し合う。 ・防災センターでの学習や各家庭での地震対策を基に、家具の配置や食器棚の中身など家の中の安全について調べたり話し合ったりする。 ・地震の揺れに強い家の構造について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭の実態にあった準備が必要であると気付くようにするため、自分と友達の防災袋の違いにも着目させ、話し合う場を設ける。 ・地震が起きたらどんな生活になってしまうのかを理解できるようにするため、防災センターへ見学に行かせる。
<p style="text-align: center;">地震に備えて、自宅で準備しておくことや気を付けておくことが分かったよ。他にも、もっともっと調べて地震が起きたら自分の命を守れるようにしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きたときに家の中がどうなるのか分かるように、地震後の家の中の様子が分かる映像を見せる。
<p style="text-align: center;">第31～38時 「地震・防災についてもっと調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて地震に関連することについて調べる。（サバイバルクッキング、地震や津波はなぜ起こるのか、災害時の安否確認の方法、防災倉庫など） ・調べたことをパンフレットにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で興味をもった内容を調べられるように、同じ内容に興味をもった子同士でグループを編成する。 ・地域の方にとって大切な情報を発信できるようにするために、必要な情報はどのようなことかをよく考えてパンフレットを作成できるようにさせる。
<p style="text-align: center;">地震についてくわしくなったよ。できるだけ、多くの人に伝えたいな。</p>	
<p style="text-align: center;">第39～40時 「学んだことを伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習したことを地域の人に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの取組が地域の役に立つことができるかどうかを知るために、地域の防災に取り組んでいる方に発表を聞いてもらい、自分たちの学習について感想をいただく。
<p style="text-align: center;">地震が起きたときのために準備しておくことや、もしも地震が起きたときにどのように行動すればよいか分かったよ。自信をもって行動できるといいな。</p>	

参考指導案① 「災害シミュレーションを通して話し合う」 <本時15時間目/40時間>

(1) 目標

- ・災害シミュレーションを通して、災害時の判断力を養う。(聞き合い伝え合う力)

(2) 本時における「探究的・協働的な学び」の姿

危険な場所や避難所等を書き込んだハザードマップづくりを通して、地震に対する知識を積み上げてきた。実際に地震が発生した場合、子どもたちはそれらの知識を活用して避難しなければならない。そこで本時は、外出中に地震が発生したという設定で避難のシミュレーションを行い、より実践的な判断力を養う時間としたい。


外出先は、学区内の〇〇〇公園とする。避難所へ行くには橋を渡ることになる点、敷地の広い避難所までの距離がある点が、〇〇〇公園を選択した理由である。どの避難所へどのような経路で避難するのかについては、一人一人の判断に違いが生まれるだろう。それぞれの児童が考えた避難方法を班で共有することで、自分や友達の考えた避難経路は本当に安全かどうか確認し直すことができると考えた。より多くの選択肢に気付くことができるようにするため、自宅からの避難所や避難経路が異なる子ども同士で班編成しておく。また、避難方法を正確に共有するため、ハザードマップに避難経路を書き込みながら話し合いを進めるよう指示する。班での話し合いを通して、自分が考えた避難方法を再考し、よりよい方法はないかと思いを巡らせられる姿を期待したい。

(3) 準備

- ・教師：避難所や危険な場所を書き込み拡大したマップ、キーワードを書いたフラッシュカード、ワークシート、学区の写真（危険場所を中心にする）
- ・児童：自分が考えた避難経路が書いてあるワークシート、これまでの学習で使用したワークシート

(4) 学習過程

時間	学 習 活 動	教 師 の 支 援
5	<p>1 自分たちが作ったハザードマップを見て学区の特徴を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・△△小学校は海拔が低いから津波が心配だね。 ・瓦工場が多いから、積んである瓦が倒れそうな場所がたくさんあったよ。 ・公園も避難所になっていたよね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有が図れるようにするため、学級用のハザードマップを作成させる。 ・避難方法を紹介する際の手助けとなるように、これまでに調べた海拔の高さや避難所の位置など学習に必要な知識を確認させる。
<p>もしも外出中に地震が発生したら、どうすれば生きのびることができるだろうか。</p>		
	<p>2 自分の考えた避難方法をグループに紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番近くの避難所がいいと思うな。 ・避難所は△△小より□□中学校の方が安全だ。 ・〇〇橋は古いから壊れるかもしれない。 ・自販機が倒れてきそうだから、なるべく避ける道を選んだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な考え方を知ることができるようにするため、避難方法が異なる者同士の班を仕組み、座席を指定する。 ・避難所と避難経路を友達に伝えやすくするため、班にハザードマップを用意する。 ・根拠を明確にして話し合いができるようにするため、避難所や避難経路を選択した訳について事前に朱書きや声かけを行わせ

20	<p>3 グループで避難方法を一つにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋が壊れるなんて考えてなかったから、違う道の方がいいかもしれないね。 ・自分の選んだ道と違うな、どちらの方が安全なんだろう。 ・この道は狭いけど大丈夫かな。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き延びるためには、情報の選択や判断が必要となるため、多数決でなくその方法を選ぶ理由に注目して話し合うように助言する。 ・場所のイメージが湧かず意見が伝わらないときに備えて、危険な場所の写真を提示できるようにする。
30	<p>4 グループごとに避難方法を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な建物や海拔などを考えた結果、この方法が最も安全だと考えました。 ・〇〇橋は古いから、別の橋を通る道にしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所と避難経路を選んだ理由について、ポイントを絞った発表ができるように、ハザードマップを活用するよう促す。
40		<p>生き延びるためにはどのように判断すればよいかを、友達の見解を参考にして考えることができたか話し合いの様子やまとめから判断する。 (聞き合い伝え合う力)</p>
45	<p>5 グループ発表を受けて自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは橋のことは気にしてなかったけれど、考えている班があってすごいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた避難方法について改めて考えられるように、友達との違いや気付かなかったことに絞って感想を書くように助言する。

(5) 板書計画

<p>守ろう命、地震に自信</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どうすれば生きのびることができるだろう</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">避難所</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">避難経路</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高台</td> <td>細い道</td> <td>(写真)</td> </tr> <tr> <td>広い・せまい</td> <td>古い橋</td> <td><input style="width: 30px; height: 20px;" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>川のそば</td> <td>自動販売機</td> <td></td> </tr> <tr> <td>近い・遠い</td> <td>かわら</td> <td></td> </tr> </table>	避難所	避難経路		高台	細い道	(写真)	広い・せまい	古い橋	<input style="width: 30px; height: 20px;" type="checkbox"/>	川のそば	自動販売機		近い・遠い	かわら		<p>本時までに書き込んできたマップ (避難所や危険場所が分かるもの)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>
避難所	避難経路															
高台	細い道	(写真)														
広い・せまい	古い橋	<input style="width: 30px; height: 20px;" type="checkbox"/>														
川のそば	自動販売機															
近い・遠い	かわら															

参考指導案② 「非常用持ち出し袋の中身について考える」 <本時25時間目/40時間>

(1) 目標

- ・自分の家の非常用持ち出し袋の中身について、必要な理由を明確にして考えることができる。
(問題を発見する力)

(2) 本時における「探究的・協働的な学び」の姿

これまで、避難訓練をきっかけにして防災学習を始め、阪神大震災や東日本大震災の資料から、地震や津波による被害を学んだ。次に、自分たちが、地震に備えて家庭ですぐに取り組めることとして、非常用持ち出し袋の準備について考えることにした。

まず、避難所の様子が分かる写真や新聞記事等の資料や避難所生活を経験した方の話を参考に、何が必要になるのかを一人一人が考える。本時では、児童一人一人が考えた非常用持ち出し袋の中身について意見交換をする。話し合いを通して、家族構成や季節など、それまでとは違う新たな視点に気付き、自分が考えたものが本当に必要かどうか、また、他に必要なものはないのかを考え直す場としたい。

自分とは異なる意見を聞き、活発な話し合いができるように、必要だと考える中身が異なっている子ども同士でグループをつくり、一つの中身の必要性について話し合わせる。その話し合いを通して気付いたことを基に、持ち出し袋の中身について改めて考え直す。

この活動によって、子どもたちが自分の意見を見つめ直し、それによって地震という災害を現実起こりうるものとして捉えられるようにしたい。

(3) 準備

- ・教師：非常用持ち出し袋の中身（各1つずつ）
- ・児童：非常用持ち出し袋の中身の写真、ワークシート

(4) 学習過程

時間	学 習 活 動	教 師 の 支 援
5	<p>1 自分が考えた非常用持ち出し袋の中身を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要最低限のものを入れないといけないね。 ・自分が持ち運べる重さを考えないといけないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動3の話し合いを円滑に進めさせるために、前時までに学習した「自分が持ち運べる重さの物を準備すること」を確認させる。 ・避難所のイメージが湧くようにするために避難所の様子や支援物資の写真を掲示する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> My 防災袋の中身は、どのようなものが必要だろうか。 </div>	
	<p>2 自分が考えた非常用持ち出し袋の中身をグループ内で発表し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲み水や食べ物に困るから、飲料水や食料は絶対に必要だね。 ・けがや病気に備えて医薬品などもあるね。 ・寒さに備えてカイロや防寒用シートがあると暖かくていいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち出し袋の中身のイメージが湧くように児童が考えた中身の写真を使って話し合わせる。 ・話し合いが活発になるように、児童が考えた非常用持ち出し袋の中身が異なる者同士でグループを構成する。 ・それぞれの考えや視点が異なっていることに気付かせるため、全員が一致して取り上げていないものについて理由を話し合うように助言する。

15	<p>3 グループ内で、全員の考えが一致しなかった中身について全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬には体を暖かくするものが必要だ。 ・うちは〇才の小さな弟がいるから〇〇が必要。 ・私のうちはおじいちゃんがいるから〇〇をもっていかないと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で話しやすくなるように、各グループで話題になった準備物を提示する。 ・持ち運びできる用品には限りがあることが分かるように、実物と非常用持ち出し袋を準備し、必要に応じて児童に背負わせてみる。
30	<p>4 話し合いを受けて、自分の準備したい中身について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち運びできる重さを考えてもっと減らさないといけないな。 ・お年寄りや小さい子など、家族の構成によって必要なものが違うね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が準備したい中身について問い直しを図ることができるようにするため、自分が考慮していなかった視点に着目して、もう一度非常用持ち出し袋の中身を考えるように助言する。
40	<p>5 友達の意見を聞いて、自分の考えが変わったところや気付いたことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族構成や季節によって必要なものが違うね。 ・いざというときに、持ち運べる重さを考えないといけないね。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>今日の話し合いをもとに、非常用持ち出し袋の中身を考える際の新たな視点に気付くことができたかを、ワークシートの記述から判断する。</p> <p style="text-align: right;">(問題を発見する力)</p> </div>



(5) 板書計画

守ろう命、地震に自信

My 防災袋の中身は、どのようなものが必要だろうか。

取りあげた人が少ない中身

避難所の様子がわかる写真をはる。

持ち出し袋の中身

小さな子どもには必要

持ち出し袋の中身

お年寄りにはあったほうがよい

持ち出し袋の中身

季節によっては必要

〈総合的な学習の時間 展開例9〉

自然の驚異に備えよう（体験中心型）〔30時間〕

小学校5年生における実践例

防災教育で育てたい柱

〔学ぶ〕	〔考え・動く〕	〔実現・貢献〕
------	---------	---------

◆ 防災教育としてのねらい

- 1 自然に対して多面的な見方や考え方をもち、災害への備えを意識させ、防災の必要性に気付くようにする。
- 2 防災について広く知識を集め問題点を見出し、それについて計画的に調べたり体験活動に取り組んだりすることで、防災に対する実践力が身に付くようにする。
- 3 自分や家族、周りの人々を守るのに役立つ知識を身に付けるとともに、身に付けた知識を共有し、より多くの人に広げていこうとする気持ちをもてるようにする。

◆ 具体的な指導（単元構想図あり）

- 1 外部講師を招いたり調べ学習をしたりして、災害の実態や被害について知り、学習への関心を高めさせる。
- 2 関心をもった災害について、消防署や地域の自主防災会等に協力を依頼し、避難に使えるロープワークや非常持ち出し品の重さ等についての体験学習を行い、防災実践力を高めさせる。
- 3 自分の防災計画を見直したり、家の防災計画を立てたりさせる。
- 4 学んだことを広く発信し、知識や技能を共有化する中で、自助・共助の意識を高めさせる。



外部講師による体験学習



防災学習運動会

◆ 発展


消防署や地域の自主防災会に外部講師を依頼し、体験学習を計画する。

（例）防災学習運動会

消防署と連携して実施。毛布担架によるけが人搬送リレー、土嚢運び競争、バケツリレー等を通して、技術を学ぶとともに、助け合いが大きな力を生むことを実感させる活動。

◆ 第5学年における他教科との関連

- | | |
|----|---------------------|
| 国語 | 百年後のふるさとを守る〔光村図書〕 |
| 社会 | 自然災害を防ぐ〔東京書籍〕 |
| 社会 | 自然災害から人々を守る〔日本文教出版〕 |
| 理科 | わたしたちのくらしと災害〔東京書籍〕 |
| 理科 | 川と災害〔教育出版〕 |
| 家庭 | 防災頭巾を作ろう |
| 保健 | けがの手当（養護教諭と連携して実施） |
| 道徳 | いなむらの火 |

児童の思考の流れと学習活動	教師の支援
<p style="text-align: center;">地震などの大きな災害がおきたらどうしよう。</p> <p style="text-align: center;">第1～2時 「災害に関心をもとう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の体験談を聞く。 防火防災教室に参加し、様々な災害を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災関係機関と年間を通じた計画について十分に打ち合わせておく。 大きな災害は次にいつ起こるか分からないことに気付かせ、防災意識を高めさせる。 地震以外の災害についても興味をもたせる。
<p style="text-align: center;">災害に興味をもったけれど、もっと詳しく調べたいな。</p> <p style="text-align: center;">第3～9時 「災害の中身について知ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害についての関心を広げる。 過去の災害の被害について班で調べ学習を行い、発表する。 他班の発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が知っている災害を引き出す。 過去の巨大地震について触れる。 マインドマップ等を活用して関心を広げさせる。 同じテーマごとに班をつくり、紙面にまとめる。 防災・減災に目を向けさせる。
<p style="text-align: center;">自分で調べ、他の班の発表も聞いて知識は増えたよ。次は、防災・減災力を身に付けるための体験学習をしたいな。</p> <p style="text-align: center;">第10～15時 「命を守る行動ができる人になろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災関係機関に講師の派遣を依頼し、体験学習をする。(ロープワーク、非常持ち出し品重さ体験、新聞紙スリッパづくり、ホットタオルづくり等) 避難所生活について、経験者の話を聞いて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連絡を取り、体験内容を打ち合わせておく。 被災後の生活状況を知り、そのとき自分にできることを考えさせる。 心の減災にも触れる。
<p style="text-align: center;">災害について詳しくなったよ。できるだけ多くの人に伝えたいな。</p> <p style="text-align: center;">第16～25時 「学びを発信しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験学習をもとに、自分にできる備えや家での防災対策に何が不足しているかを考える。 発信する内容について話し合い、まとめる。 新聞にまとめて掲示したり、下の学年へ情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家の防災対策を調べ、何が不足しているかを考えさせる。 校内及び地域への情報発信を広く行わせる。
<p style="text-align: center;">これまで学んだ知識と技を生かせる種目の防災運動会をやりたい。</p> <p style="text-align: center;">第26～28時 「防災学習運動会を実施しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災学習運動会のそれぞれの種目に、これまでの学びをどう生かすか話し合う。 防災運動会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生かして競技に臨むことを伝える。 災害時は協力することが大切であることに気付かせる。
<p style="text-align: center;">防災についてたくさん学んだよ。これまでを振り返って、これからの防災計画を立てよう。</p> <p style="text-align: center;">第29～30時 「災害に備えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの様々な取組を振り返りつつ、自分の家の防災を見直す。 これからの防災計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びを生かして自分の家の防災を見直すようにさせる。 生活の中で防災・減災活動を実践できるよう計画を立てさせる。